

# 奥羽大学報



ツツジ



シヤクヤク



キシヨウブ



バラ

キャンパスは花盛り



かわいらしいお客さん来校  
「青春の群像」池

# 142

## 目次

入学式／歯学部新入生学外研修／薬学部フレッシュマンミーティング／ 歯学部・薬学部新入生オリエンテーション	2
東健一郎君日本解剖学会優秀発表賞受賞／河村享英君日本病理学会発表賞受賞／ 国家試験ガイダンス／キャリアガイダンス	3
小学生対象の職業体験講座／バスケットボールと水泳大会／ 学長杯球技大会／動物実験研究施設利用者のための教育訓練講習会	4
県歯科医師会・東北大学共同乳歯調査／薬学部第1回FD研修会／ 歯学部保護者懇談会／歯学部父兄会幹事会・総会	5
薬学部父兄会・保護者懇談会／科研費採択率向上に関する学長講演会／ 科研費採択状況	6
若手研究奨励賞受賞者による研究経過報告会／ 研究倫理に関するセミナーの開催／大島光宏教授が参画する 「FANTOM5」の研究、3月27日の「nature」に掲載	7
歯学部研究紹介／薬学部研究紹介	8
日本補綴歯科学会特別功労賞受賞にあたって／附属病院	9
ライブラリー・ツアーと展示／同窓会だより／同窓生のひろば	10
新任教授紹介	11
人事	12

## 入学式

平成26年度入学式が4月4日(金)午前10時より記念講堂にて挙行された。歯学部および薬学部新入生並びに編入生が全員呼名され入学を許可された後、赤川安正学長が「よい歯科医や薬剤師に必ずなるという強い意志を持ち、誠実にひたむきにできる限りの努力をしてください」と告示した。新入生を代表し、歯学部の北村貴也君、薬学部の福和田奈緒君が「一日一日の積み重ねを大切にして社会に役立つ人間を目指し、学業に専念します」と力強く宣誓した。

最後に教員紹介が行われ、厳粛な雰囲気の中で新たなスタートを踏み出した。



## 歯学部新入生学外研修

本年度も4月7日(月)～8日(火)の2日間にわたり、歯学部新入生を対象とした学外研修が行われた。今回は、医の博物館(新潟市)で医学・歯学の歴史を学び、宿泊先(月岡温泉)ではグループワーク等が行われた。初日にはよそよそしい雰囲気であったが、2日目の朝には新しい友人も出来、和気あいあいと研修を終える事ができた。今後もこの友人関係を大切に、大学生活を実り多いものにしてもらいたい。



## 薬学部フレッシュマンミーティング

4月5日(土)、薬学部新入生を対象としたフレッシュマンミーティングが学内で開催された。午前中は、押尾茂学生部長と山岸丈洋学年主任より学生生活全般にわたる様々な注意事項が伝えられ、また薬学部全教員が銘々、自己紹介をした。昼食会では、学生と教員が同じテーブルに座り、和やかな雰囲気の中、ひと時を共有した。午後は、カウンセラーの車田文雄歯学部准教授の指導の下、構成的グループエンカウンターを行い、「傾聴」等を体験しながら、学生相互間並びに学生・教員間のコミュニケーションを深めた。



## 歯学部新入生オリエンテーション

4月4日(金)午後1時30分より、中央棟6階の教3にて歯学部新入生および新入生保護者を対象としたオリエンテーションが開催された。学年主任・クラス担任が紹介され、新入生には学生証やシラバスが配付された。また、齋藤高弘学生部長より大学生活における注意点などが述べられた。

## 薬学部新入生オリエンテーション

4月4日(金)午後、第2講義棟第1講義室にて、薬学部新入生とその保護者を対象として新入生オリエンテーションが実施された。1学年主任兼1組クラス担任山岸丈洋准教授、及び各クラス担任教員(2組佐藤亜希子講師、3組木田雄一講師、4組伊藤頼位講師)の挨拶に続いて、衛藤雅昭薬学部長が本学部の学修への取り組みについて紹介をした。その後、今年度1年間の日程や科目履修上の注意点等について事務担当者が説明した。

### 東健一郎君日本解剖学会優秀発表賞受賞

3月27日(木)～29日(土)に自治医科大学で行われた日本解剖学会総会・全国学術集会で歯学部4年生の東健一郎君が、学生セッション優秀発表賞を受賞した。この賞は、東君の発表の学術性、独創性、表現法が高く評価されたものである。研究テーマは「虚血再灌流モデルラットを用いた咬筋における活性酸素合成(Nox)の発現」であり、その研究内容は血液が一時的に流れなくなり、その後、時間をおいてからラット咬筋において活性酸素が発生するか否か、発生するならどのような種類の合成酵素が関係しているかなどを検討した。東君に今後の研究を聞くと、「これからも共同研究者である歯学部4年の佐藤璃奈さんとともに、本テーマのさらなる発展を目指し、口の周りの他の部位についても検索したい」と抱負を述べた。



### 河村享英君日本病理学会発表賞受賞

4月24日(木)～26日(土)、広島市の広島国際会議場にて開催された第103回日本病理学会総会で、歯学部4年生の河村享英君が「下顎骨内に原発した癌腫の3例」という演題で発表を行い、発表賞を受賞した。今回の病理学会総会では116題の学部学生発表があり、歯学部学生による発表は河村君の発表を含め2題であった。発表終了後には「病理好きですそんな仲間が大集合」という学生の集いがあり、河村君は参加された医学部学生との交流を深めていた。



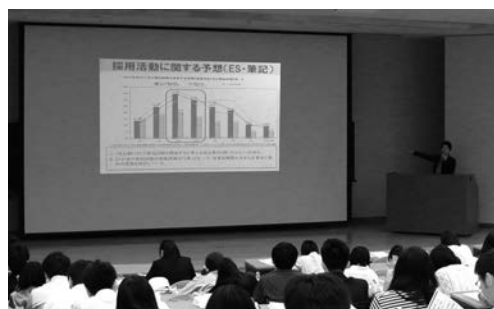
### 国家試験ガイダンス

4月2日(木)、薬学部5年生、6年生を対象とした「第100回薬剤師国家試験合格を目指して～第99回薬剤師国家試験最速分析フィードバック～」ガイダンスを、薬学ゼミナール仙台教室・教室長高田直樹先生をお招きして実施した。国家試験の合格ラインや今回の問題分析などに関して分かりやすく説明を受けていた。特に来年3月に受験を控えている6年生は、国家試験に関する注意事項や合格対策などを熱心に聴き入り、それぞれ国家試験へ向けての思いを強めていた。



### キャリアガイダンス

5月8日(木)、今年度より大きく変わると報道されている就職活動について、薬学部5年生を対象に、キャリアガイダンスが実施された。当日は㈱マイナビより講師を招き、「薬学生の就職活動」と題した講演の中で、就職日程の変更点、業界による採用活動時期の違いなど、細かい点に踏み込んだ解説があった。これから実務実習に入る学生にとって就職活動に対する不安の解消の一助になった。

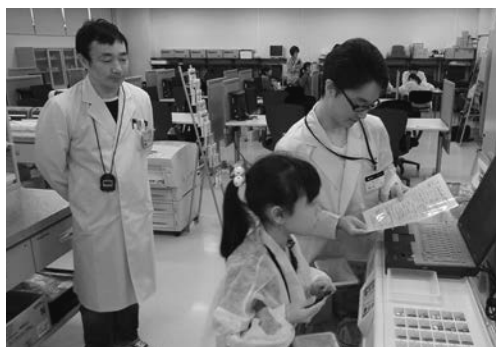


### 小学生対象の職業体験講座

5月24日(土)、小学4年生から6年生を対象とした職業体験講座が開催された。歯科医師講座には15名が参加し、実際に診療で使用するエアタービンを使って、人工の虫歯を削って型をとる体験をした。薬剤師体験講座には10名が参加し、一包化調剤、散剤調剤、水剤調剤、軟膏調剤、調剤薬監査、服薬指導のロールプレイなどを体験した受講生たちは皆真剣な眼差しで取り組んでいた。



歯科医師の体験



調剤の体験

### バスケットボールと水泳大会

バスケットボール部

北日本デンタル 男子 優勝

5月4日(日)～5日(月)

新潟大学

競泳部

2014年度日本マスターズ水泳短水路大会

4月20日(日)

宮城県総合運動公園総合プール

男子100m 6組 歯学部4年 河村享英 4位

男子 50m 8組 歯学部4年 河村享英 4位

### 学長杯球技大会

5月24日(土)、第20回奥羽大学学長杯球技大会が開催された。今年度はバスケットボールとバレーボールで白熱した試合が行われた。参加した学生からは、学部や学年の垣根を越えてコミュニケーションが取れたことが良かった、との声が聞かれ、さらに、来年度は今年度の反省を生かし、より良い球技大会にしたいとの決意もあった。



### 動物実験研究施設利用者のための教育訓練講習会

4月11日(金)午後6時から、本学第2講義棟において、動物実験委員会の主催により、若井淳先生(福島県立医科大学)を講師に迎えて教育訓練講習会が開催された。動物実験および動物を利用した実習を実施する場合には、動物実験教育講習を受講することが義務付けられていることから関心は高く、約200名の歯学部・薬学部教員、学部学生および大学院生が参加した。動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な基礎知識を修得した。



### 県歯科医師会・東北大学共同乳歯調査

本学では福島第一原子力発電所事故による放射線の健康影響に関わる研究調査の一環として、福島県歯科医師会と東北大学と共同で、福島県内の子どもの乳歯に放射性物質のストロンチウム90が含まれているかどうかの調査を行っている。原発から放出されたストロンチウム90はカルシウムに似た性質を持ち、歯や骨などに取り込まれやすい。このうち歯のエナメル質に取り込まれたものは代謝されにくい。よって、被爆からの時間の経過に関わらず内部被爆の状況を調べることができる検体として歯が注目されている。本学では、歯から検出されたストロンチウム90の量と環境放射線量との関連についての調査を分担する予定である。この調査で得られた分析結果は、歯を提供していただいた方々に直接通知される。このように、客観的なデータを個別に示すことができる本事業は、福島県民、特に子どもを持つ親の不安を解消する科学的裏付けになるものと期待されている。

### 歯学部保護者懇談会

5月17日(土)、歯学部の保護者懇談会が在学生の40%を超える保護者の参加を得て開催された。保護者からは、これからの国家試験の傾向、CBTに関すること、学校生活全般に関する質問が出され、クラス担任が現況説明やアドバイスなど丁寧に回答した。



### 薬学部第1回FD研修会

5月14日(水)、薬学部棟523教室にて、「教員が第99回薬剤師国家試験問題を学ぶ」をテーマに薬学部FD研修会が実施された。薬学部全教員が、物理、化学、生物、衛生、薬理・病態、薬剤、法規、実務の各専門分野に分かれ、分野ごとに今年の3月に行われた第99回国家試験問題を一から見直し、問題の特徴や出題傾向等を分析した。さらに、その分析結果を基に、国家試験合格に向けた今後の教育方針や対策等を分野ごとにまとめ、各代表者が発表し、その内容について全教員で活発な討議が行われ、情報を共有した。



### 歯学部父兄会幹事会・総会

5月17日(土)、第2講義棟にて、平成26年度第1回幹事会ならびに第2回総会が開催された。出席者117名のもと、狩野裕史父兄会会長を議長として下記の議案を審議し、承認した。

#### 【報告事項】

- (1) 平成25年度事業報告

#### 【審議事項】

- (1) 平成26年度の役員選出について
- (2) 収支決算(案)について



## 薬学部父兄会・保護者懇談会

5月23日(金)、平成26年度第1回幹事会ならびに第2回定時総会が開催された。93名の保護者が来校し、同時に開催された学年別懇談会、研修講演会、授業参観等でも積極的な意見交換が行われた。研修講演会では、薬学ゼミナール講師による「薬剤師国家試験合格を目指して」と題した講演があり、今年3月に実施された国家試験の出題傾向や今後の試験の方向性、受験勉強の取り組み方などが説明され、多くの保護者が熱心に聴講されていた。



## 科研費採択率向上に関する学長講演会

科学研究費補助金の採択率向上を目的として、大学院では「科研費採択促進委員会」を設置して活動している。昨年度は、赤川安正学長による科研費申請書の記載内容に関する講演と促進委員会による申請書のブラッシュアップを実施した。その結果、歯学部の採択率は前年度よりも向上した。本年度も5月29日(木)、第2講義棟にて、学長による講演会「科研費採択率の向上を目指して」が開催され、多くの歯学部・薬学部の教員が参加した。本学教員が記入した科研費申請書を実際ブラッシュアップした事例を示しながら、採択されるためのポイントについて丁寧に分かりやすい説明があった。



## 科研費採択状況

<継続>

日本学術振興会交付

研究種目	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究B	歯学部	教授	赤川安正	バイオプロセッシングを用いる機能性インテリジェント複合インプラントの新開発
基盤研究C	薬学部	講師	関健二郎	てんかん発作に及ぼすエストロゲンのHCNチャネルとGluR2制御機構の解明
挑戦的萌芽研究	歯学部	教授	加藤靖正	転写抑制因子としてのSPARCの癌転移への役割
		教授	赤川安正	アルツハイマー病と歯の喪失との関連メカニズムの分子基盤
		准教授	今井 元	摂食中枢とネットワークを形成する成長/生殖調節神経の発生を再現できる培養系の開発
若手研究B	歯学部	助教	茂呂祐利子	低出力レーザーの作用機序に関する基礎的研究—フリーラジカル制御による検討—
		講師	濱田智弘	パーキンソン氏病患者における顎運動の解析
		助教	前田豊信	歯由来幹細胞の口蓋裂部移植におけるMTAの役割
	薬学部	講師	木田雄一	既知特性をもつ複数事象の目的関数への組み合わせ最適化法の最適信号近似理論に基づく研究

<新規>

研究種目	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究C	歯学部	准教授	玉井利代子	歯周病原性細菌の宿主細胞への侵入におけるC型レクチン受容体の役割
		教授	高橋慶壮	口腔内好中球ミトコンドリア機能制御による歯周治療の可能性を探る
		教授	清浦有祐	抗体医薬の使用に伴うカンジダ症に対する科学的根拠に基づいた予防法の確立
挑戦的萌芽研究	薬学部	助教	小野哲也	機能性薄膜を用いたインスリン自動放出制御システムの構築と革新的DDSへの展開
		助教	吉田健太郎	電気刺激応答制御可能な次世代薬物放出制御メディカルデバイスの開発
若手研究B	歯学部	講師	川原一郎	地震・原子力災害における歯科医療対応の指針策定に関する研究

### 若手研究奨励賞受賞者による 研究経過報告会

昨年度から、歯学部・薬学部の若手教員に研究助成費を交付する奥羽大学若手研究奨励賞が設けられた。その受賞者、歯学部・岸飛鳥助教、高橋進也助教、薬学部・大原宏司助教による研究経過報告会が、4月28日(月)中央棟で開催された。当日は3名の受賞者が自身の研究課題に関する現在までの研究成果を報告し、今後の実験計画についても述べた。発表に対しては、参加者から多くの貴重な助言や提言がなされ、これにより研究がさらに進展することが期待される。

### 研究倫理に関するセミナーの開催

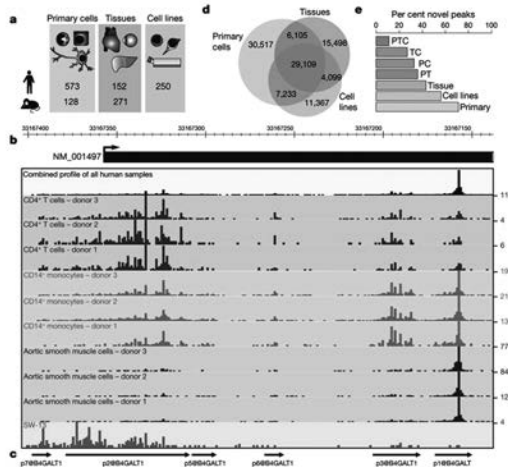
本年度の大学院特別研修セミナーは、研究倫理をテーマに3回開催される予定である。第1回として、4月25日(金)、中央棟で、愛知淑徳大学教授山崎茂明博士による「大学教員の発表倫理に関して」の講演が行われた。山崎教授は、論文不正の問題についてマスメディアで積極的に発言している研究倫理研究の第一人者であり、本セミナーでは不正の無い論文発表を行うために取り組むべき事柄を中心に貴重な提言があり、大学院教員、歯学部・薬学部教員、大学院生などが熱心に聴講した。

### 大島光宏教授が参画する「FANTOM5」の研究、3月27日の「nature」に掲載

薬学部 教授 大島 光宏

今回、私が参画した理化学研究所主導の国際コンソーシアム (FANTOM) は、「nature」507号 (2014) において遺伝子に関する論文を発表しました。その内容は第5期プロジェクトとして、正常な細胞を含む180種類の細胞や組織を収集し、それらのゲノムに存在するゲノムDNAからRNAへの書き写しをコントロールする遺伝子配列の網羅的な解析を実施した。遺伝子近傍にある「遺伝子近位制御部位 (プロモーター)」約185000個の活性をさまざまな細胞で測定し、論文が英科学誌「nature」に掲載された。私は、日大歯学部・山口助教とともにプロジェクトの一員として、世界で初めて単離培養に成功したヒトマラッセの上皮遺残 (歯根膜にある上皮細胞) 由来細胞など歯周組織の初代培養細胞を提供した。今回の成果により、人体を構成する正常な細胞の性質を制御する遺伝子制御部位について、その活性を細胞の種類ごとに測定した包括的データが得られたとすれば、ゲノムから読み解かれる情報を用いた網羅的かつ体系的な「正常細胞の定義」の基礎になる。今後、細胞の定義を更に充足させることで、ヒトゲノムが生成しうる細胞の全体像が明らかになることが期待される。

Promoter discovery and definition in FANTOM5.



ARR Forrest et al. Nature 507, 462-470 (2014) doi:10.1038/nature13182

nature

図中bには、CAGE法によって明らかにされた、細胞の種類ごとに(ある遺伝子の)転写開始点のプロフィールが異なる様子が示されている

## 歯学部研究紹介

## ニコチンによる歯周組織構成細胞からの骨吸収因子産生促進についての研究

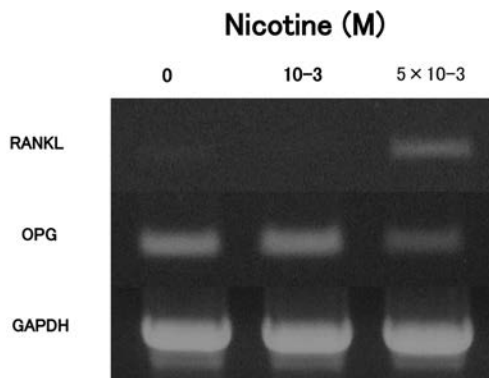
口腔衛生学講座 教授 廣瀬 公治

喫煙が歯周病のリスクファクターであることは広く知られるようになったが、喫煙が歯周病の典型的症状である骨吸収を促進することを示す基礎的知見は未だ少なく、これを得ることが現在の私の研究テーマである。

骨吸収を促進する因子として Receptor activator of NF- $\kappa$ B ligand (RANKL) がある。一方、この RANKL と競合して骨吸収を抑制する Osteoprotegerin (OPG) がある。そこで歯周組織に豊富に存在する血管内皮細胞からのこれら因子の産生にタバコ煙中の有害物質であるニコチン (Nicotine) がどのような影響を与えるか検討した。その結果、ニコチンは血管内皮細胞からの RANKL の mRNA 発現を促進したが、これとは反対に OPG の mRNA 発現を抑制することを見出した (図)。さらには、ニコチンが免疫担当細胞であるマクロファージからの骨吸収を促進するサイトカインの産生を促進する可能性を見出している。よって、

これらニコチンによる骨吸収因子産生機構の詳細を追及し、喫煙と歯周病との関連を確証するための研究結果を得ることが今後の課題となる。

なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金に採択され (平成 23 年度基盤研究 (C))、第 61、62 回日本口腔衛生学会総会で発表した。

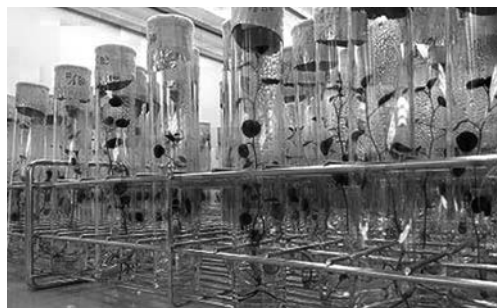


## 薬学部研究紹介

## 「甘草 (カンゾウ)」の国内栽培研究—震災復興活用植物を目指して—

生薬学講座 准教授 伊藤 徳家

漢方薬は奈良時代から使われており、今ではその処方箋は 200 以上ある。甘草はその 7 割に配合される最重要の生薬 (しょうやく: 漢方薬原料用に加工された植物) であり、漢方の王様と呼ばれる。しかし全量を中国などからの輸入に頼っている。近年、中国では乱獲による絶滅危機となり、輸出を大幅に制限した。これにより日本では漢方薬が流通しない危機的状態が起き、大問題となった。以来、甘草など重要生薬の国内調達体制作りが国の緊急課題となっている。甘草は日本では栽培不可能であったが、最近ようやく生育株が見つかった。しかし、単に成長すれば良



いわけではなく、薬の原料として国の定める規格を満たす必要がある。これを達成すべく、本研究室では人工気象室と被災地の試験栽培圃場で最適栽培条件探索研究を進めている (写真)。甘草は収穫まで数年以上かかることが国内生産への課題であるが、期間短縮が可能となれば国内安定供給へ向けて大きく貢献できる。本研究は (独) 科学技術振興機構 (JST) の復興促進プログラム (マッチング促進、三か年事業) に採択され、震災被災地の企業と共同で復興に資する薬用植物栽培事業構築を目指して展開している。





## 日本補綴歯科学会特別功労賞受賞にあたって

歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯学  
教授 寺田 善博

平成26年4月23日、仙台市で開催されました日本補綴歯科学会の際に、「日本補綴歯科学会特別功労賞」を受賞致しました。どのくらい学会に貢献できたかわかりませんが、補綴学会との関わりを振り返ってみました。昭和48年6月、日本補綴歯科学会入会（現在に至る）、平成元年4月、評議員・代議員（平成25年3月まで）、平成4年10月、専門医・指導医（現在に至る）、平成9年4月、九州支部長（平成11年3月まで）、第101回日本補綴歯科学会学術大会大会長、平成17年5月、日本補綴歯科学会理事・ガイドライン作成委員会委員長（平成19年5月まで）、平成25年5月、日本補綴歯科学会名誉会員（現在に至る）、というように40年以上学会に所属し、微力ながら私にできる範囲で貢献したつもりです。今回の受賞につきましては大変名誉なことだと嬉しく思っております。

今後も日本補綴歯科学会ははじめ関連学会に参加し、他大学の先生方とも交流を深めて、いろいろな情報を収集し、本学のためにお役に立てればと思っている次第です。

## 附属病院

### 登院式

4月1日(火)、新しく歯学部の第5学年となり、臨床実習を開始する42名は、附属病院臨床講義室で当院式に臨んだ。病院長挨拶の後、院内生を代表して千喜良仁君が宣誓をした。患者さんと接する臨床実習は重要な1年間であり、真摯な態度で勉学に励み、有意義なものにすることが期待される。



### 歯科医師臨床研修開始式

4月1日(火)、平成26年度歯科医師臨床研修開始式が、大野歯学部長をはじめ関係者が多数出席し、講義棟第2研修室において挙行された。臨床研修歯科医師一人ひとりが呼名され研修許可の後、杉田病院長より臨床研修の意義や歯科医師としての人格涵養と生涯研修の第一歩における心構えについての訓示があり、厳粛に閉式となった。

### 臨床研修管理委員会

5月31日(土)、平成26年度第1回臨床研修管理委員会が郡山ビューホテルアネックスで開催された。今年度研修歯科医が派遣される施設を中心に約30名の参加者があった。委員会では当院の臨床研修に関する詳細が説明され、円滑な研修実施のための活発な意見交換が行われた。また、会議終了後の研修会では先に厚生労働省から発表された、「歯科専門職の資質向上検討会報告書～歯科医師臨床研究制度の更なる充実にむけて～」について、鎌田政善教授より臨床研修の今日的な動向について解説がなされた。



## ライブラリー・ツアーと展示

4月14日(月)から5月14日(水)まで、図書館利用案内である「ライブラリー・ツアー / いま、図書館がおもしろい」の第1弾が希望者を対象として随時、図書館内で開催された。図書館の施設、資料貸出手続き、図書の配置、分類、目録など、図書館の基本的な内容が毎回15分ほどの短時間コースで説明された。第2弾は目録検索やデータベース紹介を中心として、5月19日(月)から同月30日(金)まで行われ、理解を深めた。また4月10日(木)から5月30日(金)まで、企画展示「本の歴史～写真と本に見る」が図書館カウンター前で開かれ、図書や印刷の歴史を示す写真11枚、関連図書12冊が紹介された。



## 同窓会だより

池田 廣明 (千葉県支部長 歯学部7期生)

奥羽大学歯学部同窓会千葉県支部は、平成元年4月1日に発足いたしましたので、昨年度で満25年、四半世紀経ったこととなります。発会時に携わった諸先輩先生方には御苦勞が多かったと思いますが、初代支部長には故大木俊夫先生(1期生)がなられ、その後、遠田毅先生(2期生)、齋藤英次先生(3期生)がその任にあたり、私は今年度より務めさせていただくことになりました。会員数は、25年度においては、2期生から29期生までの62名が在籍しています。

最近の年間の活動としましては、通常3月に役員が集まり、次年度の予定を立て、5月に総会・懇親会、10月又は11月に学術講習会・懇親会を開催しております。また、6月と秋には、他大学との懇話会やゴルフでの交流をはかっています。今年度は、5月10日に千葉市のパーティホテルで総会・懇親会が行われ、11月8日に開催の講習会は、診療報酬改定の年でもありますので、同窓の講師による社保講習会を予定しています。来年度の学術講習会は、講師を奥羽大学からお招きしてお願いしたいとも考えております。

支部長をさせていただいて思うことは、我々の母校、奥羽大学が震災・原発事故の影響を受け、3年を経過し

た現在も困難な状況にあることを考えると、こういう時期こそ、同窓会をしっかりと維持していくことが大事ではないかということです。すでに4000名近くの同窓生が全国におられるということは、奥羽大学がそれだけの年数、歴史を刻んだということでもありますので、そこから生まれた同窓会を、千葉県支部の場で、これからも微力ながら大切にしていきたいと思っております。(千葉県支部会員の皆様、多数の御参加よろしくお願いたします。)

## 同窓生のひろば



村上 直弘 (歯学部18期生)

平成7年に卒業をしてから早いもので、20年近くの年月が経ちました。同窓の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年11月に野球部のOB会があり、5年ぶりに郡山を訪れました。同期の友人夫婦に車で市内を隅々まで案内してもらいましたが、あまりの変貌ぶりに驚きました。まず6年間野球の練習に汗を流したグラウンドが無くなっており道路になっていましたし、周辺の八山田が大きく発展していました。変わっていない場所も沢山ありましたが、3年前の東日本大震災の影響が今も残っている様子も見受けられました。大学前を走っている磐越西線の線路向うに仮設住宅が並び、また駅前通りや国道4号線沿いに、おそらく建物が壊れてしまったためできたであろう駐車場があちらこちらにあるのを見ると、当時の混乱した状況をうかがい知ることができました。ただ街が復興に向かって前進している様子がわかりましたので、更なる発展を願っております。

さて私自身は平成13年に東京都世田谷区で開業し、14年目になります。都内でも歯科医院が乱立し経営環境は厳しい状況ですが、何とか診療所を維持しています。また地元の世田谷歯科医師会に所属し、同窓の先生7人と仲よく会務をこなしていましたが、この春同期の友人が入会し、私を含めて9名になりましたのは、うれしい出来事でした。同窓会東京支部の理事も12年続けており、20名程いる理事とともに活動しております。理事同士仲が良く、お互い協力し合って東京支部を支えています。ただ残念ながら東京支部は400人以上の会員がいるのですが、なかなか一つにまとまりきらず、理事と一部の会員で運営しているのが現状であります。私と18期生との繋がり話を移しますと、ここ6年間に東京と横浜で3回20人規模の集まりに参加する機会がありました。国内だけでなく台湾からも集結したおかげで卒業してから初めて顔をあわす同期生も数多くいて、友情を深めることができました。

私もあと3年で50歳になります。すでにいくつか病気を抱え毎月病院で検査を受けている身ですが、まだまだやりたいことは沢山ありますので、日々精進をして過ごしていきたいと思っております。

## 白石 童子 (薬学部1期生)

私は、現在生まれ故郷である、福島県いわき市に住んでいます。いわきは気候が穏やかで、東北の中でも夏涼しく、冬暖かい、大変住みやすい地域です。

昨年12月に、大学卒業後お世話になっていた郡山の調剤薬局を退社し、今年の2月、いわき市にある公益財団法人ときわ会常磐病院の薬剤部で働き始めました。一般、療養病床合わせて240床、透析136床の泌尿器科と腎臓内科をメインにいわき市の地域医療を支えている病院です。薬剤部に所属する薬剤師は私を含め11名、それに薬剤助手4名を加えた15名で入院、透析の処方、また外来の一部院内処方をこなしています。

調剤薬局から病院への転職というのは珍しいと言われて、私自身もあまり聞いたことがありませんでした。調剤薬局と病院の一番の違いは、注射剤の扱いがある点だと思います。私には今まで注射剤を扱った経験がなく、病院への転職を決めたものの、果たしてやって行けるものかと不安でいっぱいでした。

入職後、薬剤部長を始め3人の主任と個性的な同僚達に支えられ、注射剤や、病棟業務など多くのことを学んできました。現在、入職3か月が過ぎ、抗がん剤のミキシングにも携われるようになりました。まだまだ知識は足りませんが、私でもなんとかやって行けると感じてきたところです。

こんな私でもどうにかやって行けるので、もし、病院への就職、転職で迷っている方がいましたら、参考にさせていただけたらと思います。

常磐病院の薬剤部は和気あいあいとした楽しい職場です。他部署の看護師さん等から「薬剤部はみんな仲良くて、楽しそうでいいね」とよく言われるほど笑いの絶えない職場です。教育体制も充実しており、今年度から薬学生の実習も受け入れ始めました。薬剤師も募集中ですので、興味のある方がいらっしゃいましたら一度見学にいらして下さい。

歯学部 歯科補綴学講座冠橋義歯学  
教授 寺田 善博

本年4月1日付けで、本学歯学部に着任致しました。よろしくお願ひ申し上げます。私は九州大学歯学部を昭和48年3月に卒業し、同年4月に同大学歯科補綴学第一講座(当時)に入局致しました。平成元年3月に平安亮造教授(当時)が定年退官され、その後任として平成3年9月1日付けで歯学部教授(歯科補綴学第一講座)に昇任致しました。そして、約40年間九州大学歯学部で過ごさせて頂き、平成25年3月末日をもって九州大学を定年退職致しました。定年退職後は、日本補綴歯科学会をはじめ関連学会にはできるだけ参加し、さらにいくつかの学会では理事、監事等もお引き受けしておりました。今回、縁あって本学に着任することになりましたが、前任校での経験を生かし全力を出して奥羽大学のために貢献したいと思っております。今後ともよろしくご指導のほど、お願ひ申し上げます。

薬学部 医療薬学(薬理・病態)分野  
教授 井上 忠夫

4月1日付けで薬学部医療薬学(薬理)分野教授として着任いたしました。日本大学薬学科を卒業後東海大学医学部付属病院、聖路加国際病院で医療薬学に従事し、その後がん薬物治療に関する専門薬剤師育成のため国際医療福祉大学大学院で研究と教育に従事してきました。さらに、医療分野で注目されているバイズ統計をがん薬物治療の分野に応用し、がん薬物治療評価学の確立を目指すため東京女子医科大学医学部医療・病院管理学非常勤講師、電気通信大学大学院情報理工学研究科鈴木研究室の客員研究員として研究に取り組んできました。がん薬物治療の研究分野は著しい進歩を遂げていますが高価な薬剤を投与してもQALYs(質で調整した生存年)の延長はそれほど優位な結果に結びついていません。患者志向の医療を目指し、奥羽大学からアート(技能)とサイエンス(知識)を兼ね備えた人間性豊かな薬剤師とがん領域を含めた専門薬剤師を目指す薬学生の教育に全力で取り組んでいくつもりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 新任教授紹介

歯学部 歯科補綴学講座口腔インプラント学  
教授 関根 秀志

本年4月1日付けで歯学部教授を拝命いたしました。歯科補綴学講座の所属として口腔インプラント学を担当させていただきます。超高齢化が進む本邦では、健康長寿の一助として欠損歯列の咬合再構成が衆目を集めております。なかでも安心・安全なインプラント治療のため、歯科医師には適切な知識と技術の習得が強く求められており、大学教育はその責を担っております。一方、臨床主導で発展が進むインプラントの領域では、より質の高い科学的根拠が求められております。今後、奥羽大学の諸先生方と共に教育・研究・臨床それぞれに取り組む、「人間性豊かな医療人の育成」に努めてまいります。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

薬学部 医療薬学(薬理・病態)分野  
教授 西屋 禎

このたび、4月1日付をもちまして、薬学部医療薬学分野教授を拝命いたしました。私は、北海道大学薬学部を卒業し、同大学院博士課程を修了後、NIH、UCSF、北海道大学医学部、岡山大学薬学部を経て、本学に赴任いたしました。その間、主に誘導型一酸化窒素合成酵素の発現と分解に関わる細胞内情報伝達系とその分子機構について研究を行ってきました。

赴任してまだ二カ月余りですが、キャンパスに咲く色鮮やかな花々に毎日感動しています。まだ、花をつけていない樹木にこれからどんなきれいな花が咲くのを楽しんでいます。来年の春に、学生全員が大輪の花を咲かせられるように精一杯教育・研究に努力して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



薬学部 医療薬学(薬剤)分野

教授 中村 郁子

私は仙台市に生まれ育ち、大学時代を札幌市で送りました。北海道大学薬学部をスタートに、東北大学農学部を経て附属研究所や歯学部・医学部の薬剤師として勤務しながら嫌気性菌

の研究を続けました。また歯学部基礎の先生と共同研究をさせて頂いたCa2+拮抗薬の副作用に関する研究は患者さんの質問がきっかけでした。臨床ではお薬説明書作成システムを構築して実用化し、新聞にも取り上げて頂きましたが、研究が患者さんのために役立つことを実感できた思い出に残る仕事です。その後一昨年まで青森大学薬学部教員として仕事をしました。これまでの経験を活かして学生教育と附属病院薬局業務に鋭意努力したいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。



薬学部 医療薬学(薬剤)分野

教授 河野 晴一

本年4月1日付で教授職を拝命しました。教授職は要職であり、責任の重さを実感する日々です。生物薬剤学、薬物送達システム概論並び医療薬学総論を担当しています。

私は北里大学薬学部を卒業後、国立病院薬剤師として勤務し、1993年、トロント大学医学部薬理学教室Ted Inaba教授のもとでヒト肝臓を用いた5FUの異化作用研究をし、その後、同大学Medical Research Council (MRC) グループのTennenbaum教授のもとで、ディファレンシャル・ディスプレイ法による骨芽細胞遺伝子 (inovo) の探索研究を行いました。帰国後、国立病院機構神奈川病院薬剤科長を最後に定年退職し、本学へ赴任してまいりました。

研究については日本人におけるN-アセチルトランスフェラーゼの遺伝子多型、NONMEM (非線形混合効果法) による薬物の共変量検索などホームページの研究紹介をご覧いただければ幸いです。

本学の教育理念に基づき、不屈の精神で本学並び薬学部発展に貢献できるよう努力してまいりたいと存じます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

人事

〈指定職選任〉

大野 敬	歯学部長	4月1日付
杉田 俊博	附属病院院長	〃
齋藤 高弘	歯学部学生部長	〃
清浦 有祐	大学院研究科長	〃

〈兼任〉

清野 和夫	教授・歯学部 事務局長・事務局	4月1日付
-------	-----------------	-------

〈昇任〉

宇佐美 晶信	新 教授 旧 准教授	4月1日付
熊本 隆之	新 教授 旧 准教授	〃
金原 淳	新 教授 旧 准教授	〃

〈任用〉

寺田 善博	教授	歯科補綴学	4月1日付
関根 志元	〃	〃	〃
今井 元仁	教授	口腔機能分子生物学	〃
川鍋 仁子	講師	成長発育歯学	〃
湯澤 礼	助教	口腔機能分子生物学	〃
鈴木 望	〃	口腔病態解析制御学	〃
岡本 晋也	助教	歯科補綴学	〃
山野 晋也	〃	成長発育歯学	〃
渡辺 敦	〃	〃	〃
田中 恵梨	〃	臨 床	〃
藤田 杏子	〃	〃	〃
藤田 杏子	〃	〃	〃
有馬 英夫	〃	〃	〃
池田 悠太郎	〃	〃	〃
小林 東	〃	〃	〃
小川 優	〃	〃	〃
神庭 一郎	〃	〃	〃
奈田 憲二	〃	〃	〃
桑原 二章	〃	〃	〃
羽鳥 智也	〃	〃	〃
山本 雄介	〃	〃	〃
五十嵐 一彰	〃	〃	〃
岡田 隆寛	〃	〃	〃
大友 悠資	〃	〃	〃
村上 大基	〃	〃	〃
高山 浩史	〃	〃	〃
村島 直道	〃	〃	〃
浅倉 彬人	〃	〃	〃
鳥田 佳奈	〃	〃	〃
柳田 みずき	〃	〃	〃
早乙女 大地	〃	〃	〃
森 直広	〃	〃	〃
吉田 綾子	〃	〃	〃
遠藤 未来	〃	〃	〃
小松 泰典	〃	〃	〃
須田 修二	〃	〃	〃
安積 優衣	〃	〃	〃
甲斐 有紀	〃	〃	〃
井上 忠夫	教授	薬学部	〃
河野 晴一	〃	〃	〃
西屋 禎子	〃	〃	〃
中村 郁子	〃	〃	〃
多根 井重	准教授	〃	〃

〈昇格〉

佐久間 奈美	新 係総務 旧 長主任	4月1日付
--------	-------------	-------

〈採用〉

小倉 佑李	医療職員	病院医療部	4月1日付
山田 弥咲	〃	〃	〃

〈定年〉

山本 正雅	准教授	薬学部	5月4日付
-------	-----	-----	-------

〈再任用〉

山本 正雅	教授	薬学部	5月7日付
-------	----	-----	-------

奥羽大学報142号(通算No.267)平成26年5月31日発行

発行 奥羽大学 学報編集委員会 委員長 赤川 安正

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372 ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp メールアドレス info@ohu-u.ac.jp